

授業科目 小児言語障害学演習

【担当教員名】 山岸 達弥、渡辺 時生		対象学年	3	対象学科	言語
		開講時期	前期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	30
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎			◎	
【概要・一般目標：G10】 言語発達障害の鑑別・診断・評価を修得する。 検査の種類とその利用、検査の実際（施行、採点、解釈、翻訳）と報告書の書き方を修得する。					
【学習目標・行動目標：SBO】 1. 各種検査を理解し、適切な検査法を選択できる。 2. 検査の施行、採点、解釈、翻訳（報告書を含む）の各段階を実施できる。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	検査の実際（1）			1・2	演習
2	検査の実際（2）			1・2	演習
3	検査の実際（3）			1・2	演習
4	検査の実際（4）			1・2	演習
5	検査の実際（5）			1・2	演習
6	検査の実際（6）			1・2	演習
7	検査の実際（7）			1・2	演習
8	検査の実際（8）			1・2	演習
9	検査の実際（9）			1・2	演習
10	検査の実際（10）			1・2	演習
11	検査の実際（11）			1・2	演習
12	検査の実際（12）			1・2	演習
13	検査の実際（13）			1・2	演習
14	検査の実際（14）			1・2	演習
15	まとめ			1・2	講義
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)					
参考書		言語聴覚士のための言語発達障害学	石田宏代、大石敬子	医歯薬出版株式会社	2008・4,400円＋税
その他の資料					
【評価方法】 レポート		【履修上の留意点】 演習時には他人任せにせずに、各自積極的に参加すること。 各回の演習内容およびグループ構成は、追って連絡する。			